

ふるさと創生事業

テノールの第一人者五十嵐喜芳氏を招いて

都留新春音楽祭開催

今年度のふるさと創生事業「S

ANTI・キャンパスタウン都留」

の「美との出あいの郷」Aプラン

事業の一環として、平成二年都留

新春音楽祭を開催します。市民の

皆さまの参加をお待ちしています。

なお、会場の収容人員が二〇〇

名ですので、整理券を発行いたし

ます。お早目に往復ハガキで申し

込んでください。

日時 2月17日(土)

午後1時開場

場所 都留文科大音楽研究棟

内容

第一部 市民コンサート

午後2時

○市内小・中・高校生の合唱

または合奏

○都留文科大学生の合唱または合奏

○都留ママさんコーラスの合唱

第二部 音楽鑑賞

午後3時10分

○声楽家「五十嵐喜芳先生」の独唱

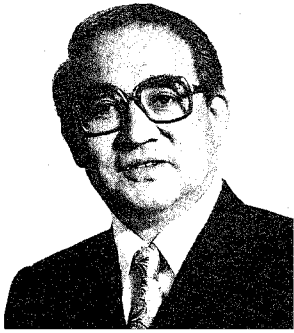
入場料 無料

申込先 都留市田原三―八一―

都留文科大 新春音楽祭係

いがらしきよし
五十嵐喜芳氏の

プロフィール



東京芸術大学卒業。芸大在学中に文化放送音楽賞を受賞し、その後数々の賞を受賞する。一九五七年から五九年までイタリアに留学。六二年に世界各地でリサイタルを開いて好評を博し、六三年の「椿姫」で第五回毎日芸術賞受賞。その後、数々のオペラの主役を歌って、テノールの第一人者としての名声を高める。

一九八五年第三代藤原歌劇団総監督に就任。日本のオペラ界で初めて字幕スーバーを導入するなどオペラ界に新風を吹込んでいる。

城下田原と秋元三代の治績

第九回 秋元但馬守喬知(2)

表二

喬知は敬神崇祖の念厚く、北口・河口の両浅間神社にも鳥居・社殿の建造や寄進の物件が数多く見うけられ、また絹織物の増産による産業の振興を計り、江戸文化との交流に尽くしました。また、喬知は絵を狩野常信に学び、弟子の狩野常輝を秋元家の御用絵師としたので、郡内には狩野派の筆による絵が仏閣や神社に多く残されています。宝永元年(一七〇四)十二月、喬知公は五万石で武蔵(埼玉県)川越に転封となり、正徳四年(一七一四)八月一日卒、行年六十六歳、義州喬知済川院と号し、総社(前橋市)の光巖寺に葬られました。大正元年追贈従三位、室は富朝公の弟忠朝の女です。



秋元喬知が河口浅間神社に奉納の
铸造絵馬額

堰名	着工・落成年月日	備考
五ヶ堰 (田野倉・大月・駒橋・殿上・猿橋)	寛文年間(一六六一―七二)頃か	延享五年(一七四八)四月の堰絵図あり、富朝の晩年か喬知(朝)知行の頃か。
今井堰	延宝二年(一六七四)四月十五日完成	喬知、上暮地・尾(小)沼の両村に命じ、天家坂上の新川堀割を開始。今井半兵衛を普請奉行としたので堰名となる。
梁尻工事	延宝二年(一六七四)八月二日開始、同五年(一六七七)三月十日完成	喬知、山中湖と忍ヶ湖の瀧流尾を開削する工事を大明見・小見・松山・上吉田・下吉田・新倉の各村に割り当てる。普請奉行は矢貝清太夫・今井半兵衛の両名。
吉田・松山用水工事	延宝六年(一六七八)三月開始	喬知、金山大滝下三日月川より、諏訪明神の下を見渡し、上吉田・松山・下吉田・古屋敷・月光寺に至る新川を開削する。
新倉堀貫工事	元禄三年(一六九〇)正月より同十四年(一七〇一)八月二十六日まで	喬知、河口湖の水を取り入れて氾濫を防ぎ、新倉村の堰水とするため、船津村入口より礮山を堀り抜いて赤坂の出口まで、およそ三キロメートルにわたる工事は、十二年を費やしたが穴の食い違いから中止となった。普請奉行は大久保庄太夫、新美彈右衛門の両名。